

カナダ・カモーンソンカレッジ/Canada Camosun College

[2025 年 9 月～12 月]

経営学部 4 年 永井 郁充 (ながい いくみ)

【はじめに】

私は 2025 年 8 月から 12 月までの約 4 ヶ月間、カナダのブリティッシュ・コロンビア州 (BC 州) ビクトリアにあるカモーンソンカレッジ (Camosun College) へ交換留学をしました。日本でもサッカー 2 級審判員として活動しており、将来「国際審判員として世界で活躍する」という夢に近づくため、多様な文化が共存するカナダを留学先を選びました。ビクトリアは州都でありながら落ち着いた雰囲気を持つ学術・観光都市で、豊かな自然と都市機能が調和した、学びと生活の両面で非常に優れた環境でした。

【カモーンソンカレッジでの学びと「参加型教育」】

大学では、英語能力の向上を目的とした ELD (English Language Development) プログラムを受講しました。

履修科目

Academic Communication Skills (話す・聞く)、

Advanced English (読む・書く)、

Grammar for Composition (複雑な文法) の 3 科目を毎日受講しました。



日本の講義形式とは異なり、すべての授業がディスカッション中心です。「正解」を求めることよりも「自分の考えをどう伝えるか」が重視され、PowerPoint を用いた原稿なしのプレゼンテーションなど、アウトプットの質が厳しく問われました。また、オーディオ音源ではなく、目の前の講師が話す内容を即座にノートにまとめるなど、実生活に直結する「生きた英語」の習得に注力しました。

【カナダの日常生活と住環境】

滞在中はホームステイを選択し、多文化主義を掲げるカナダならではの家庭生活を経験しました。ホストファミリーに加え、ドイツ、トルコ、メキシコ、ブラジルなど多国籍な留学生と同居しました。家庭内では英語以外にスペイン語やドイツ語が飛び交い、城西大学での第二外国語の学びが直接役立つ場面もありました。週末のみにしか洗濯ができなかったり、21 時には消灯だったり、家庭独自のルールを守る中で、周囲との調和を意識した行動の重要性を再認識しました。

【移動と文化】

市内移動はバスが中心でしたが、学生定期 (Umo バス) により無料で利用できました。降車時に運転手へ感謝の言葉を伝える現地の人々の姿からは、些細なやり取りを大切にしている価値観を学びました。



【課外活動】

私にとってサッカーは、単なる趣味ではなく英語力を向上させるための最高のツールでした。週 2 回、学校のサッカークラブでプレーする際、息が切れて脳に酸素が足りない極限状態でも、英語でコーチングや意思疎通を行う必要がありました。この「考えてから話す」暇がない環境が、俗に言う英語脳を発達させ、自然とフレーズが口から出るようになる大きな契機となりました。

【専門性を磨く】

留学期間中、私はカナダ国内だけでなくアメリカでも審判員として活動しました。

カナダ国内の活動としては、Canada West League（西カナダ大学サッカーリーグ）など、テレビ放送も行われる規模のリーグを含め、全 24 試合（主審 17 試合、副審 7 試合）を担当しました。スタジアムでカナダ国歌「O Canada」が流れる中、異国の地で試合をコントロールする経験は、代えがたい誇りとなりました。

世界最大規模のネットワーク「Referee Abroad」を通じ、ワシントン D.C.とフロリダで開催された MLS（メジャーリーグサッカー）ユース等の大会に 2 度参加しました。



【おわりに】

この留学を通して得た最大の教訓は、「自分の常識は相手の常識ではない」ということです。異なる価値観を否定せず、理解しようとする姿勢こそが信頼関係を築く第一歩です。

日本という島国を飛び出し、多文化の中に身を置くことは、これまでの価値観を覆す大きなアクションになります。「井の中の蛙大海を知らず」の状態で過ごすのは、非常にもったいないと思います。自分の選択が正解かどうかを悩む前に、まずは一步を踏み出してください。親に借金をしてでも行く価値がある、それほど濃密な成長が留学には待っています。私の経験が、皆さんの新しい挑戦への後押しになれば幸いです。